

## 広報ワーキング開催状況

# 広報ワーキング開催の経緯

- 第29回協議会のWG設置承認を受けて委員の募集を行いました。
- 12月に「準備会」を開催してメンバーの追加を行い、1月に第1回のワーキングを開催しました。
- 広報ワーキングではメンバーの追加、広報の進め方および当面の活動等についての議論を始めています。
- 当面の活動として、新聞広告、工事見学会、工事看板設置について検討を行いました。

日程	内容	備考
第29回協議会 10月29日	・広報WG設置方針の承認 ・委員募集開始	11月まで募集
広報WG準備会 12月6日	・広報WG設置に向けた協議 メンバーとワーキングの進め方、実施内容と当面の活動	会長およびメンバー6名(1名欠席)の計7名で開催
第1回広報WG 1月10日	・ワーキングのメンバー追加と進め方 ・当面の活動 新聞広告、工事見学会、工事看板、自治体広報誌、その他	会長およびメンバーに自治体の環境・広報・農政担当者7名を加えた計13名で開催
工事見学会 2月10日	・管理目標WGによる施工時の現地指導の実施にあわせて、協議会委員による見学会の開催を検討し、ハンノキの移植、自治体広報関係者への呼びかけおよび報道への投げ込みを行った。	自治体広報関係者参加 2/11朝日新聞埼玉版に掲載 2/14JCN関東ケーブルテレビ放送
新聞広告 2月18-19日	・荒川上流河川事務所の広報活動の一環として、読売新聞埼玉版および埼玉新聞に「官民連携」をテーマにした公告で太郎右衛門地区自然再生事業を紹介した。 ・記事の構成・記述については、WGメンバーからの意見を踏まえて作成した。	
工事看板 製作中(年度内設置)	・今年度の工事に際して設置される「看板」について、長期使用に耐える形状および事業全体を紹介する内容で製作している。 ・看板の内容については、WGメンバー委員からの意見を踏まえて作成した。	

# 広報ワーキング準備会の概要

- 会長およびメンバーにより、ワーキング設置に向けた協議を行いました。
- ワーキングにはメンバーを随時追加していく方針が提案され、第1回には自治体関係者の参画を得て開催することとなりました。
- 当面の活動として、新聞広告内容の検討、工事見学会の実施、工事看板の内容検討を行うことが確認され、第1回で議論することになりました。

## 【広報WG準備会開催概要】

●日時・場所：平成23年12月6日 9:30～11:30 埼玉県自然学習センター

※準備会の主な意見はP8-9にあります。

# 第1回広報ワーキングの概要

- 会長および自治体の環境・広報・農政担当者を加えたメンバーにより、ワーキングの進め方や当面の活動について協議を行いました。
- ワーキングにはメンバーを随時追加していく方針が合意され、自治体からは広報担当者が参加しました。
- 当面の活動として、新聞広告、工事見学会、工事看板の内容の検討として、事務局から原案をメンバーに配信し、各自より意見を提出することになりました。
- 地域の「キーマン」の発見や観光との連携、自治体の広報誌への掲載について、次回から議論していくことになりました。

## 【第1回広報WG開催概要】

●日時・場所：平成24年1月10日 16:00～18:20 さいたま新都心合同庁舎2号館7階関東地方整備局河川部会議室

※第1回の主な意見はP10にあります。

# 工事見学会の実施状況

- 広報WGメンバーの発案により、管理目標WG代表メンバーによる施工時現地指導にあわせて、工事見学会を開催
- 自治体広報関係者への参加呼びかけ、報道への投げ込みの実施

## 【工事見学会実施状況】

- 掲載日時：平成24年2月10日 10:00～12:00
- 参加者：協議会委員は計34名（自治体広報関係者は川島町・桶川市・上尾市）



堂本委員による掘削地の工事指導状況の見学



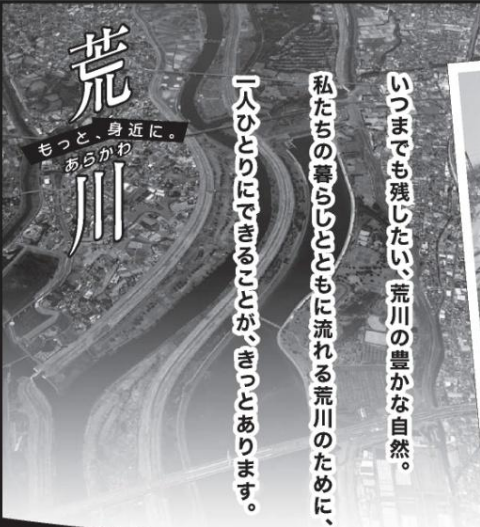
当日参加者によるハンノキ移植の記念写真

- ・ 工事箇所の見学会、移植の様子は2月11日朝日新聞（埼玉版）に掲載されました。また、また、2月14日にJCN関東ケーブルテレビで様子が放送されました。

# 新聞広告の掲載状況

## 【新聞広告掲載状況】

- 掲載日：平成24年2月18-19日
- 掲載誌：読売新聞埼玉版、埼玉新聞



## 官民と地域がひとつとなって 荒川の自然環境を守ります。

荒川の大切な自然を守るためには、多くの人が知恵を出し、自然を守るための協力を得ることが必要です。よりよい荒川づくりの活動は、国と企業が、そして地域のみならずひとひとつひとつ力を合わせていくことが大切です。

- 入間川流域で環境保全活動を支援する  
武州・入間川プロジェクト。  
入間川水系の治水に力を尽くされた創業者の精神を受け継ぐ武州ガスと、荒川を管理する荒川上流河川事務所、埼玉県生態系保護協会がはじめた、官民連携のプロジェクト。それが武州・入間川プロジェクトです。このプロジェクトは入間川流域における自然環境の保全・再生・創出などの活動に取り組む市民団体やNPO、学校などに対し、その活動を支援するための助成事業です。
- 荒川の豊かな自然をとりもどす  
荒川太郎右衛門地区自然再生事業。  
失われた自然環境を取り戻すことを目的として平成15年1月1日に施行された「自然再生推進法」に基づく自然再生事業の第1号として全国で初めて認定されました。平成15年7月に協議会が組織され、地域の方やNPO、学識者、行政機関の方々や話し合いながら荒川における湿地の再生や河群林の保全に取り組んでいます。

# みんなの力を合わせて！明日の荒川づくり。

多くの団体や市民が参加して、  
未来の荒川づくりのために活動しています。

## 武州・入間川プロジェクト

### 湿地の植物を大切にす会



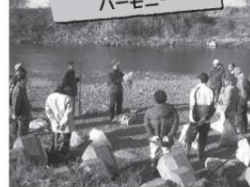
三ツ又沼ビオトープの自然環境保全作業を他団体と連携して行っています。冬はヨシ原の草を運び出し、希少種の芽生えのために、太陽が地面に当たるようにします。

### 特定非営利法人 荒川の自然を守る会



三ツ又沼ビオトープの自然管理作業と、自然に親しんでもらうための観察会や調査会を行います。親子自然塾では遊びながら自然の大切さを学んでもらいました。

### ボランティアサークル ハーモニー



入間川での河川清掃と河川環境講演会を開催しました。河川清掃では終了後、河川のごみが野鳥などの生物に与える影響などについて学ぶことができました。

●みなさんの活動の幅を広げます。  
入間川流域（入間川、越辺川など）の河川内をフィールドとして行う河川環境の保全・再生・創出に貢献する活動などのための器具、材料の購入、資料・報告書の作成費に必要な助成支援（最大20万円）を行います。さらに団体活動の幅を広げる当該河川に関する情報提供、専門家、講師の派遣などを行う活動をサポートいたします。

平成24年度助成団体を募集します。  
助成団体募集  
（応募期間）  
平成24年  
2/1～3/23  
お問い合わせ先  
（財）埼玉県生態系保護協会内  
「入間川環境保全支援委員会事務局」  
TEL 048-645-0570  
E-mail iruma-project@ecosys.or.jp

## 荒川太郎右衛門地区自然再生事業

- 地域やNPOと国と一緒に実施しています。
- 河川周辺の豊かな自然は、私たちの水源や命の源となっていると共に、地球環境を守る要です。
- しかし、昔ながらの自然が残る荒川太郎右衛門地区も、乾燥化などにより荒廃の危機にあります。
- そこで、地域の方々、ボランティア、NPO、学識者など多くの方々や行政機関が協議会を作り、どのように自然を取り戻して再生していくかを話し合い、事業を実施しています。
- かつて確認されていたサクソウやメダカなどたくさんの生き物達が暮らせる美しい湿地環境や河群林の保全再生を目指す活動に、皆さんも一緒に参加しませんか。



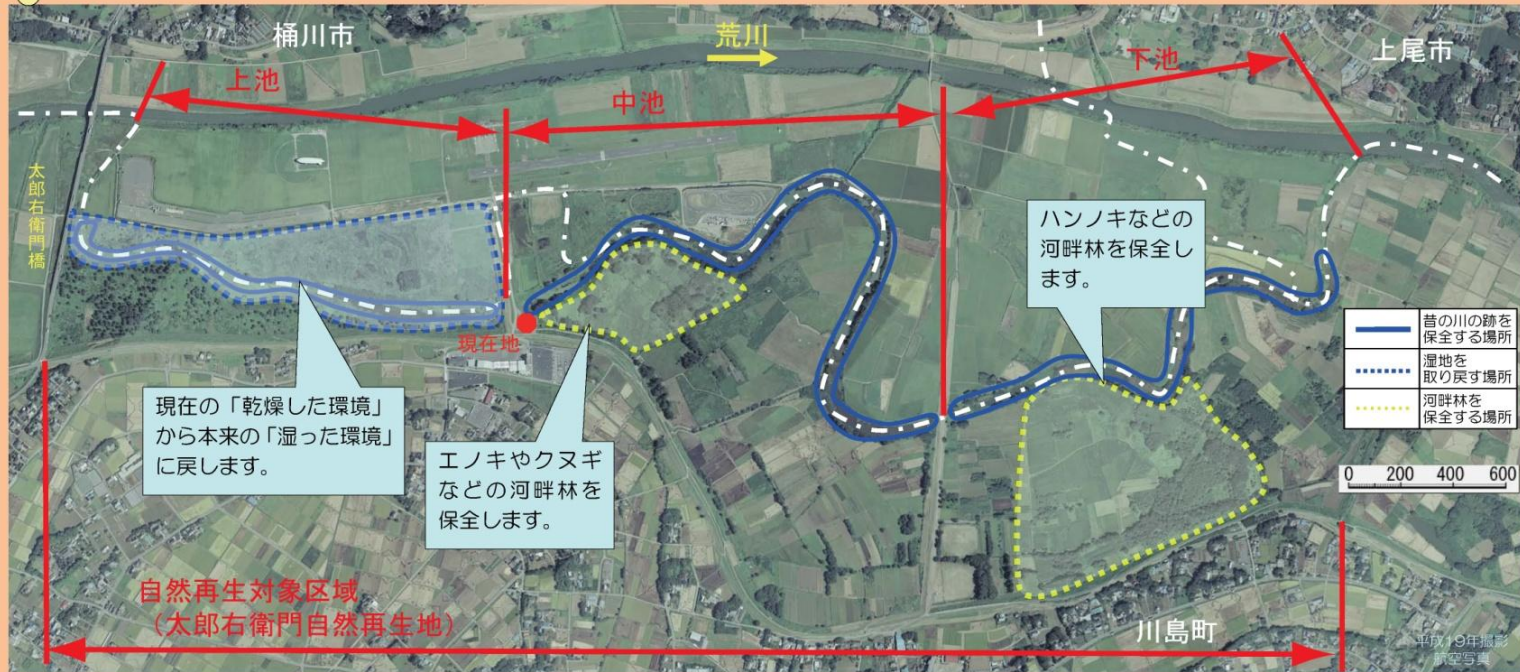
太郎右衛門  
って  
だれ?  
江戸の浜、この地区に  
実在した渡しの運営者  
で、後に架けられた橋に  
名前が残っています。

# 工事看板の製作状況

- 「看板」の内容は、広報ワーキングの検討の結果自然再生事業全体を紹介するものとなりました。
- 看板の設置位置は見学会時に参加委員と協議の結果、人目につきやすいサイクリングロード横に設置することとなりました。
- 看板の大きさはA0サイズ(縦84cm、横119cm)で、両面印刷となります。

## 荒川の豊かな自然をとりもどす 取り組みをしています

この地域は、**荒川太郎右衛門自然再生事業の区域**です。



- かつてこの地域にたくさんいた生き物達が暮らせる湿地や河畔林の再生を目指す工事と管理をしています。
- この取り組みは、地域のみなさん、NPO、学識経験者、行政が一緒になって進めています。
- 皆さんも一緒に参加しませんか。興味のある方は下記までお問い合わせ下さい。

### 【問合せ先】

荒川太郎右衛門地区自然再生協議会事務局 Tel. 049-220-0145 (荒川上流河川事務所河川環境課内)

【ミドリシジミ】  
湿地に見られるハンノキを食料とするチョウです。初夏の夕暮れにハンノキ林の樹冠部を素早く飛び回ります。



こんな生き物が戻ってくることを目指しています。

【サクラソウ】  
早春に花をつけます。かつては荒川の沿道に広く見られましたが、現在では限られた地域でしか見られません。



# 広報ワーキング今後の予定

## 【 広報ワーキングの平成24年度の活動方針 】

- 平成24年度は、地域の「キーマン」の発見や、観光との連携、自治体の広報誌への掲載、インターネットを活用した情報交換・発信のための仕組みづくりなど、できることから検討を始め、試行していきます。
- 検討・試行状況およびその結果について協議会に報告します。
- 重要な決定事項や、新たな検討の実施については、協議会に諮ることとします。

日程	内容	備考
第30回協議会 3月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報WGの活動開始報告</li> <li>・新聞広告、工事見学会、看板製作の報告</li> <li>・H24活動方針の承認</li> </ul>	
第2回広報WG 3月予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動結果報告</li> <li>・自治体広報誌への掲載について</li> <li>・インターネットを活用した情報交換・発信の仕組みについて</li> <li>・平成24年度の活動について</li> </ul>	
平成24年度早期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年度の活動 地域の「キーマン」の発見や観光との連携、自治体の広報誌への掲載、インターネットを活用した情報交換・発信のための仕組みづくり、その他</li> </ul>	
随時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討・試行を継続</li> <li>・協議会へ報告(必要に応じ承認を得る)</li> </ul>	メンバーは適宜追加

# 参考 広報ワーキング準備会の主な意見

## ①広報WG設立に際し、目的・役割、組織、設置要綱について

項目	内 容
目的 役割	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">人を集める？</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">都会の人が見てくれる →郷土のほこり</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">自然再生の意 味を知っても らう</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">価値の共有</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">イメージの共有</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">各論に入りすぎて 進まない例がある 共有が必要</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">都心へのPR</div>
行動 内容	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">何年後に目的を達成？そ れを見すえないと</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">近々の話・長い話 (臨機応変に)</div> </div>
組織 メンバー 事務局	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">メンバーは変わっていてもいい(随時追加)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;">外部委員→いずれ協議会に</div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自治体の情報</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 10px;">さいたま県 川の国</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 10px;">水辺再生課</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 10px;">県の課長</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 10px;">県に積極的に参画してもらう</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px; margin-left: 20px;">県議会</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px; margin-left: 20px;">市町の広報担当者</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px; margin-left: 20px;">行政にとっても市民と近い協議は新鮮</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px; margin-left: 20px;">国との連携</div>
設置 要綱	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">農村整備の 人が必要</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;">メディア:さいたま新 聞記者など</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;">ホンダエアポー トとの関わり方 を考える</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;">自然再生で勢いのあるのは地 元の昔からの人が頑張ってる ←専門の人がフォローしてる</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;">ヤリタナゴ保全の人</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; margin-left: 20px;">デザインも重要 : デザイナーに頼む 場合は自然への理 解を十分に</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; margin-left: 20px;">どのチャンネルを使ってやっていくか?(今は人、予算もない)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; margin-left: 20px;">若い人はやる気ある(話が伝わってない)</div>



# 参考 広報ワーキング準備会の主な意見

## ②広報WGで検討する項目について

項目	内容
<p>コンテンツの作成</p>	<p>わかりやすい主要テーマを    テーマからやるのが広がる するためのテーマをしぼる    テーマの例 手をのばせば届く川    人をひきつける場所</p> <p>自然再生の役割    こうなればというイメージが必要    協議会で共有されてるイメージを外に    イメージ コウトリ    川で泳いだイメージ</p> <p>昔の写真(大正時代)</p> <p>湿地の価値を広報    良い事例    湿地再生で成果を見られる場所は？(江川などがある)    高麗川の事例</p> <p>①市民向け②行政向け    ドナウの氾濫源</p> <p>太郎右衛門ブランド    商標登録もする？    泥つけの農業を再生    エコツーリズム    オーストリアでは自然再生地で観光施設がある→一人に知らせる場所と入れない場所を</p> <p>学校給食に地元のものを    旅行者のモラル</p> <p>模型飛行機も問題(アウトドアの活動との関係)    ラジコンの音    ラジコンは禁止で取り締まれる    野鳥観察</p>
<p>発信手段</p>	<p>ホームページ    荒上のHPでも目立つように    HPを立ち上げを荒上(業者)、管理を協議会で    バナー広告(桶川)    メディアの広報(毎日)    「県民だより」にのせてもらいたい</p> <p>ブログ</p> <p>看板の設置    観察小屋    散策路    ガイド    地域の人に語ってもらうなど</p> <p>農産物の直売所と連携    旅行社との提携</p> <p>地元 外の人 ブランド化</p>
<p>発信ルール</p>	<p>新聞に出ると人が来るので注意</p>
<p>公開連絡手段</p>	<p>広報担当の懇談会</p> <p>ブログ管理者</p>
<p>すぐにできる広報</p>	<p>工事中から看板    2月の新聞も活用</p>

# 参考 第1回広報ワーキングの主な意見

## ●座長選出

- ・ 座長は浅枝会長が推薦され、承認された。

## ●議事

### 1)ワーキングメンバーの追加等について

- ・ 自治体については、広報の実働者が次回から参加する。
- ・ メンバーは固定しないで柔軟に取り込んでいく。

### 2)ワーキングの進め方について

- ・ WGと協議会の関係・ルールは明確にする。協議会の承認を得る必要があるもの以外はWGで決めて実行していく方針とする。
- ・ 「自分も自然再生にかかわる一員になれる」「参加したいな」と思ってもらえるようなアピールの仕方が良い。
- ・ 「地域の認知度を上げる」とことと「他から来てもらうようにする」とことは、分けて考える必要がある。地元の関心は外からの目が向くと高まるので、両方とも実施していく必要がある。
- ・ 「地域の認知度を上げる」ためには、商工会などキーマンを見つけ、キーマンに話をしに行くのが良い。ワーキングメンバーがキーマンにPRする場もつくっていく必要がある。
- ・ 「他から来てもらうようにする」広報はセンスが必要なので、専門的な人の協力が必要である。
- ・ 東京に近いので「他から来てもらうようにする」ポテンシャルは高い。広報により自然再生と地域活性化が両方うまくいくようにできると良い。

### 3)当面の活動について

#### (1)すぐに実施する

- ・ 新聞広告の原案に対しては意見を荒川上流河川事務所へ連絡し、意見をとりまとめて広告原稿を作成する。
- ・ 「移植」については協議会委員対象のイベントとして実施する。自治体の広報担当者に参加してもらい「広報」を兼ねる。報道へは事前に投げ込みをする。
- ・ 看板については、あまり色々盛り込まず、予定地がわかる程度のものが良い。大きな文字で地図と自然再生の内容の小さな絵を交えたようなものとする。
- ・ 市町の「広報誌」では、事業の特集を1回載せて周知してから、個別の事業を連載していく形が良い。
  - ⇒ 2市1町が協働で統一紙面とするのが良い。
  - ⇒ タイミング的には、3ヶ月先の発行にあわせて動く必要がある。

#### (2)実施を検討する

- ・ 人を呼ぶにはトイレや安全面の整備が必要である。
- ・ サイクリングやウォーキング利用者への認知度を向上させるためには、コースの改善や「駅からハイキング」の活用等の検討が必要である。
  - ⇒ 利用のための整備に関わるデザインは、自然再生との整合が必要なので、プロの検討が必要である。
- ・ 周辺の活性化を考える自然再生としていく。
  - ⇒ “タゲリ米”のようにタゲリ＝自然にやさしいというイメージからブランド化している活用事例がある。
  - ⇒ 地元の人がよく通う場所が地元にとって財産となる。
  - ⇒ ボランティアなど「働く」内容のツアーの検討。
- ・ 現状ではかなりゴミが多い。ゴミ拾いをするのも良い。ゴミが無くなればゴミを捨てにくくなる。
- ・ エコロジカル・ネットワークとして、広く考えていく。
- ・ 工事が何なのかも含めて活動内容の発信が必要で、そのためには看板の設置が必要。